

理事候補プロフィール

2014年定期総会でご提案する、理事候補のプロフィールをご紹介します（新任の方が先頭／アイウエオ順）

○片木裕一（新任） 所属クラブ／日台鉄道愛好会

幼稚園児のときに、誕生日祝いで157系「日光号」のプラモデルをもらい、鉄道模型に目覚めて半世紀を過ぎました。目覚めた当時は当然ながら完成品やキットなどはとても手が届かず、お小遣いを貯めてはペーパーキットを作っていました。高校時代に「鉄道友の会東京支部模型部会」に参加、雑誌で掲載されているモデラー多数に接し、多くの制作技術を教わるのができたのは、とても幸運でした。

大学生になり、日本全国の中小私鉄を乗り歩き、撮影&車庫に入れてもらって実測、主として中小私鉄の車両をペーパースクラッチで制作するようになりました。就職して大阪へ、10年ほどモーレツ社員になり鉄道模型制作は小休止するも、鉄道友の会阪神支部の「模型サークル」設立・入会で鉄道模型制作を再開、その後関西鉄道模型クラブにも加わり（現在も在籍）、大きなレイアウトに合わせて、新幹線を初めとした長大編成ものも手掛けるようになりました。

それから約10年経って東京へ復帰、現在は台湾の鉄道車両を主に制作すると同時に、台湾の風景を意識した小型レイアウトを手掛けています。JAMは「国際鉄道模型コンベンション」ですから、多少は寄与しているのではないかと思います。

多くの子供は必ず「鉄道好き」の時期があると思います。大人になって、「ああ、やっぱり鉄道はいいな、模型も手掛けたいな」と思っていたらいいような会場造りに寄与できるよう、努力する所存です。

○遠藤 嘉郎 所属クラブ／早稲田大学理工学部 職員 OB 鉄道模型同好会

鉄道模型との出会いは、幼少の頃、祖父および叔父が持っていた3線式0ゲージで遊んだことに始まります。

その後、小学2年の時、親につぼみ堂製101系電車を2両買ってもらったことがきっかけで、その後現在まで、日本型16番を趣味としてきました。

車両の製作は、小学5年頃まではペーパー車体、その後真鍮工作に変わりスクラッチビルドは中学3年に製作したED75が最初です。

レイアウトの製作は組立式に終始しており、中学・高校の時に部活等で2つの組立式レイアウトを製作、大学に入ってから現在JAMコンベンションに出展している組立式レイアウトの母体を製作しました。電気/制御関連の工作も好きで、小学5年の時にパワーパックを自作して以来、上記3件のレイアウト用のコントロールボード、パソコンインターフェース等を回路設計し製作してきました。

JAMではこれまで2期4年間理事を務め、コンベンション担当としてMP出展される皆様への準備・案内等に努力してまいりました。また同時に鉄道模型を始めるきっかけを提供すべく、来場されるお子様・ご家族連れ等の皆様にも鉄道模型の楽しさ・素晴らしさを紹介する企画を実施してまいりました。今後もこれらの活動をより一層推進していきたいと考えております。

○大野 雅志 所属クラブ JMLC (Japan Module Layout Club)

去年より昔から興味のあった軽便鉄道をテーマにしたレイアウトの制作に取り掛かりました。いままでのNゲージレイアウトと違って1/87ではストラクチャーや樹木など大きさに対する感覚が異なり、窓1つ作るのも楽しい経験を積んでいます。年代的には大正末期、軽便鉄道がまだ華やかな地方鉄道を想定しており、地元近郊の博物館や関連する書物などをベース「頑固、独りよがり、思い込み」の職人氣質丸出しでイメージを膨らませています。レイアウトのスペースは1000x600程度ですが、このスペースに残照では無く、全盛期の軽便鉄道をいかに詰め込むかと試行錯誤しています。これと並行にNゲージでは電車基地モジュールも制作しています。このモジュールは5400x800、3分割になります。こちらは、現代、パナホームやダイワハウス、セキスイハイム、住友林業などの近代的な建物が並ぶ新興住宅地がテーマです。昭和30年代の木造建築ならこれまでも多くの作例や技法が発表されており、制作は面倒だが難しくはない状況です、それに対して近代の住宅は外壁の表現が難問となり制作に二の足を踏んでいました。しかしパソコンとプリンターがあればなんとかそれらしいのは作れるのではないかと制作に踏み切りました。建物は自分の家の周りにいくらかでも参考になる家が立ち並んでいます。図面を描くのも家の窓から見える家で基本的には問題ありません。ただ、数が要ります、数が要るものは「のんびり作る、最初に作る、あまりこだわらない」の原則にしたがって制作中です。いつかこの2つのレイアウトもJAMコンベンションの会場で発表したいと思っていますが、同様な思いを抱いて作品の制作に励んでいるモデラーも少なからず存在していると思います。アマチュアが自分の作品を発表出来る唯一のイベントとの位置付けからもJAMコンベンションの継続開催は意義のあることであり、そのための努力を理事の一員として協力して行きたいと思っています。

○川田 輝 所属クラブ/HOMP (HO Module Project)、HOJC

かれこれ40年以上も鉄道模型を続けているのだから我ながら「よくもまあ」と感心しますが、ベテランの前では決して長いキャリアではないのが鉄道模型の恐いところ。

ところがJAMコンベンションで見かける“おやっ”という作品を尋ねると、模型を初めてわずか5年…。鉄道模型は面白いものです。

旧国からギヤードロコやTGVまで興味は尽きず、モジュールの整備や駆動系のからくり凝るのも愉快と模型遊びは止めどがないですが、そんな経験を生かして今後もJAMのお役に立てればと思っています。

4年前に理事に加わり、JAM Expressやウェブサイト、総会併催イベントなどのとりまとめをして来ました。今年はコンベンション運営にも関わらせていただきます。

○小池 令之 所属クラブ/相模大野模型クラブ

長年模型誌を購読するだけでしたが、16年ほど前から手を動かすようになり、JAMには第3回コンベンションから参加させてもらっています。

16番とGゲージを中心に、気楽な自由型で遊んでおります。

出来の善し悪しはともかく、他にはない世界の構築を目指しております。

近年はアナログでアナクロな構造によるギミック工作も楽しんでいます。

「鉄道模型は一生遊べる趣味」、「自分の世界を作り出す楽しみ」、そういったものをアピールできれば、と考えております。

○平井 憲太郎 所属クラブなし

第1回国際鉄道模型コンベンション開催以来お手伝いをしてきました。JAMが2001年にNPO法人となる準備もお手伝いし、設立以来監事、あるいは理事として会の運営に携わってきました。

本業は月刊とれいん誌の発行ですが、実務は現編集長に委ね、鉄道模型についてはもっぱらボランティアとして参加しています。2010年の総会で選任された現理事会で、理事長に推挙され、2年間務めさせていただきました。

理事会メンバー全員が本業を持っている中での会の運営は決して楽なことではありませんが、趣味の一致するもの同士の思いやりで、楽しい活動を続けて参りました。これからも鉄道模型の楽しさを一人でも多くの方に知っていただくために、日本鉄道模型の会をますます発展させていきたいと考えております。

趣味の模型では、プラスのスクラッチビルドが大好きなのですが、最近は老眼を言い訳に作業が進みません。皆様から良い刺激を受けて、自分のホビーライフも充実させたいと思っています。

○藤井 良彦 所属クラブ/HOMP(HO Module Project)

鉄道や鉄道模型は、我々の世代としてはご多聞にもれず、小学生の頃から大好きでした。しかし、濃い趣味の世界に足を踏み入れてしまったのは、中学、高校時代が、蒸気機関車現役最後の5年間、いわゆるSLブームの時期だったからでしょう。とりつかれたように、撮影旅行に駆け回った分、蒸気の終焉とともに「撮り」は燃え尽き、こんどは模型製作へとシフトしました。だから当時から模型に託していたのは、「景色の中を行く汽車」の姿。今でも、HOスケールのモジュール/ジオラマと車輛で、その時代の景色と空気を再現することをメインにしています。

JAM理事としては、この2年間、鉄道ホビーを取り巻く環境の変化に対応し、「次の10年」に繋げるべく、時代に合わせた新たな企画を立ち上げ、運営してきました。今後もこの路線を推進し、世の中での「鉄道ブーム」を追風に、JAMおよびコンベンションの一層の拡充を目指したいと存じます。

○松本 謙一 所属クラブ/NMRA(NMRA 終身会員)

鉄道模型に「紳士(そして願わくば淑女)のホビー」というイメージを定着させたい。それが私の願いであり、その推進役をこの会に期待しています。「紳士淑女」とは、具体的には「文化の担い手という自覚と誇りを持った人々」です。この会の活動が社会から尊敬されるものに育つ事で、その認知は推進されるでしょう。

直近の2期4年、事務局長として、より多くの方を会員として迎えらるような体制づくりに努力してきました。それは順調に進んでいると思います。これを足がかりに、いよいよ紳士淑女が鉄道模型を語る場としての会に育てていきたいと考えています。

個人的には鉄道模型歴64年目です。文学的鉄道模型を目指してレイアウトを造っています。そこでは、細密さに驚くより、楽しさに微笑んでもらうことを目標にしています。鉄道模型の奥深さ、表現の可能性を皆さんとともに拓きたいと望んでいます。

本会以外の団体活動は米国テネシー州チャタヌーガに本部を置くナショナル・モデル・レールロード・アソシエーションの終身会員、そして実力派米国型ファンが結集してJAMコンベンションを舞台に作品発表する〈オール・アメリカン・レイルズ〉のメンバーです。